

## 「柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要」投稿規程

### 1. 本誌の名称

「柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要（以下、「紀要」という）」とし、年1回発行する。

### 2. 本誌の目的

- 1) 理学療法学，作業療法学，言語聴覚療法学，視能矯正学の学術的な発展に寄与すること。
- 2) 学科内に共通の研究発表の場を提供するとともに，学科を越えた学際的共同研究活動を促進すること。
- 3) 論文発表の機会を提供すること。また，卒業生に論文をまとめる経験の場を提供すること。
- 4) 福岡国際医療福祉学院，専門学校柳川リハビリテーション学院の研究・教育活動に関する外部への情報発信を行うこと。

### 3. 投稿資格

福岡国際医療福祉学院及び専門学校柳川リハビリテーション学院の専任教員，兼任教員，専任教員と共同研究を行っている者，両学院関係施設の者，及び両学院卒業生は，この規定の定めるところにより，紀要に投稿することができる。

また，紀要編集委員会の決定により本学以外の著者に投稿を依頼することができる。

### 4. 投稿原稿の種類

- 1) 投稿は，本学の学術研究の発展に寄与する原著，症例研究，報告，短報，その他（書評，資料紹介など）のいずれかとし，未発表のものに限る。
  - ①原著：新しい価値ある理論・結論あるいは事実を含むと認められるものとし，20ページ以内とする。
  - ②症例研究：特殊な問題をもつ症例の臨床経験や臨床的問題についての報告と考察を行ったものとし，12ページ以内とする。
  - ③報告：独創性を問うものではないが，有用かつ意義があると認められたものとし，12ページ以内とする。
  - ④短報：短い原著に近いもので，結論の速報・略報とし，症例報告，臨床報告，新しい情報なども含まれる。12ページ以内とする。
  - ⑤その他：紹介，翻訳，書評，随筆などで，8ページ以内とする。
- 2) 上記の原稿の区分は投稿者が行うが，紀要編集委員会が区分及びそれに伴う必要な変更を求めることがある。

### 5. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は，柳川リハビリテーション学院・福岡国際医療福祉学院紀要編集委員会に属する。また，本誌に掲載された論文はオンラインで公開される。

### 6. 研究倫理

ヘルシンキ宣言に基づき対象者の保護には十分留意し，説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。

また，原則として厚生労働省の「臨床研究に関する倫理指針」などの医学研究に関する指針（註）に従うこと。倫理審査を受けて承認されている場合は承認番号を記載すること。

なお，高邦会グループに所属する者の論文の場合は，必ず医療法人社団高邦会倫理審査委員会の承認番号を記載すること（しかし，両学院の学生の論文はこの限りではない）。

研究目的（診療上の必要性以外）の放射線被曝は必ず倫理審査委員会の承認を得ていること。

動物実験系の論文の場合には，必ず倫理審査委員会等の承認番号を記述すること。

### 7. 投稿原稿の査読と採否の決定

投稿原稿の掲載の可否は，紀要編集委員会が依頼した2名以上の査読者による査読結果をもとに，紀要編集委員会で採用，修正後採用，修正後再査読，不採用の判定を下し，速やかに著者に結果を知らせる。なお，必要に応じて適切と思われる本学の教員以外の者に審査の一部を依頼することができる。

### 8. 別刷り

筆頭執筆者宛てに，掲載誌を2部，別刷りを10部，無料で贈呈する。

### 9. 原稿送付方法および連絡先

#### 1) 原稿送付方法

投稿原稿は表紙，要旨，本文，図（写真を含む）・表などすべて正1部，副2部を送付する。またテキストファイルをCD-ROMに保存し，同封する。

#### 2) 原稿送付先

〒832-0058 柳川市上宮永町116-1

専門学校柳川リハビリテーション学院内

紀要編集委員会宛

TEL：0944-72-1001 FAX：0944-72-1018

註：<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/i-kenkyu/index.html>

## 10. 執筆規定

- 1) 原稿は和文とし、A4サイズの内紙にワードプロセッサを用いて1ページ40字×24行(ダブルスペース)、横書きで印字し、原稿には通しページを記入する。数字及び英字は原則として半角とする。句点は「.」、読点は「,」を使用する。原則として、縦書きの論文は受け付けない。
- 2) 原稿には表紙をつけ、その表紙に表題、希望する原稿の種類、原稿枚数、図表枚数、キーワード(3語以内)、著者名、所属を記載し、連絡先(氏名、所属、郵便番号、住所、電話、FAX、E-mailアドレス)を明記しておく。なお、表題、著者名、所属については、表紙の次ページに英語で記載すること。
- 3) 要旨は、目的、方法、得られた結果、結論を簡潔に400字以内で作成する。
- 4) 本文
  - ①はじめに:研究、開発、調査などの経緯、背景、意義などを述べた導入部分。研究などの目的、取り扱っている主題の範囲、これまでの研究との関連性の明示などを記述する。
  - ②対象及び方法:用いた原理、理論、条件、材料、手段、方法、手順などの記述。方法・テクニックなどは専門研究者が読んで追試できるように記述。対象者の保護には十分留意する。
  - ③結果:実験的・理論的な結果、データ、認定された関係、観察結果、得られた効果・性能などを記述する。
  - ④考察:結果の分析・検討、結果の比較・評価、問題提起、今後の課題、仮説、応用、示唆、勧告、推論、予測などを記述する。
  - ⑤結論:省略も可能。
  - ⑥文献:引用文献のみとする。
- 5) 新かなづかいを用い、できるだけ簡潔に記述する。数字は算用数字を用い、単位や符号は慣用のものを用いる。
- 6) 外来語はカタカナで書く。外国人名や適当な日本語訳のない術語などは原綴を用いる。略語は括弧内にフルスペルで記載する。
- 7) 単位は原則として、国際単位系(SI単位)を用いる。長さ:m、質量:kg、時間:s、温度:℃、周波数:Hzなど。
- 8) 引用文献は以下の例に基づく様式にて、本文の最後に必要最小限にとどめた上で、本文の引用順に記載する。引用箇所の上には<sup>1)</sup>、<sup>1) -3)</sup>、<sup>1, 3-6)</sup>などの番号で示す。引用した文献は、著者、編者が多い場合は3名までを記載し、越えた分は「……他」、「……et al.」のように記載する。雑誌名は

その雑誌が使用している略名がある場合は使用してもよい。

### (1) 単行本の場合

#### ①単独あるいは共同執筆の場合

著者名:書名。出版社名、発行地、発行年、引用ページ。

例(和文):1) 千住秀明:呼吸リハビリテーション入門第4版。神陵文庫、兵庫、2004、pp17-82。  
(英文):2) Desmedt JE, Godaux E: Progress in Clinical Neurophysiology. (ed. By Desmedt JE), Vol. 8, Karger, Basel, 1980, pp215-242.

#### ②分担執筆の場合

著者名:論文題名。編者名(編):書名。出版社名、発行地、発行年、ページ。

例(和文):1) 上岡洋晴、岡田真平:体型・体格評価。武藤芳照、黒柳律雄、上野勝則・他(編):転倒予防教室。日本医事新報社、東京、1999、pp46-53。

(英文):2) Clarys JP, Robeaux R and Delbeke G: Telemeterd versus conventional EMG in air and water. Winter DA, Norman RW and Wells RP et al. (eds.): Biomechanics IX-B. Human Kinetics, Champaign, 1985, pp286-290.

### (2) 雑誌の場合

著者名:論文題名。雑誌名、巻:ページ、発行年。

例(和文):1) 森田正治、青柳潔、八幡裕一郎・他:地域の中高年女性における肢不自由の実態に関する研究。日本公衛誌48:889-896, 2001。

(英文):2) Tinetti ME, Williams TF, Mayewski R: Fall risk index for elderly patients based on number of chronic disabilities. Am J Med 80:429-434, 1986.

9) 図(写真を含む)・表は、各々400字詰め原稿用紙1枚として換算する。

10) 図(写真を含む)・表には本文に出てくる順にそれぞれ一連番号をつけ本文とは別にまとめておき、本文の右欄外に挿入希望位置を指示する。図は、印刷時にモノクロ印刷となるため原則としてそのまま掲載できる明瞭なものとする。

11) 図の番号及び見出しは図の下に、表の場合は表の上につける。

(平成29年3月31日改定)